

DETHATCHER

エンジン デサッチャー

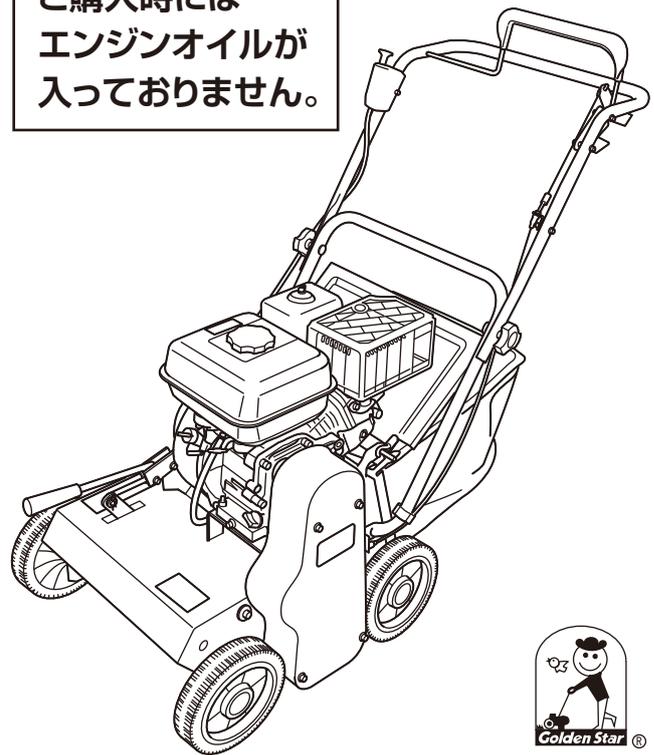
エンジン式デサッチャー

GDT-351

このたびは、ゴールデンスター／エンジン式デサッチャーをご購入いただき、誠にありがとうございます。

本書は運転操作および保守上の重要な項目について説明したものです。ご使用前に必ずお読みいただき、正しくご使用いただくとともに、お使いになる方がいつでもご覧いただけるように大切に保管してください。

ご購入時には
エンジンオイルが
入っておりません。



目次

安全にお使いいただくために	2
各部の名称と仕様	6
デサッチャーの取扱い	9
1. エンジン始動までの準備	9
1-1. ハンドルを本体へ取付ける	9
1-2. キャッチャーを取付ける	10
1-3. 作業前点検をする	11
1-4. エンジンオイルと燃料の点検・給油と エアクリーナの点検をする	12
1-5. リール作業高さ調整をする	14
2. サッチ除去作業・根切り作業	15
2-1. エンジンを始動する	15
2-2. エンジンを停止する	17
2-3. サッチ除去・根切り作業 (オプションのデルタリール使用) を開始する	18

お手入れ方法と保管方法	21
1. お手入れ	21
1-1. フレイルリール(フリー刃)の交換	23
1-2. デルタリール(根切り刃/オプション) の交換	24
1-3. エンジンオイルの交換	26
1-4. エアクリーナの点検・清掃	27
1-5. ドライブベルトの点検・交換	28
1-6. 燃料ろ過カップの清掃	29
1-7. 点火プラグの点検・調整・交換	30
1-8. デサッチャーのお手入れ	31
2. 長期保管について	32
2-1. 長期保管のためのお手入れ方法	32
トラブルシューティング	34
1. 各種調整方法について	35
1-1. クラッチケーブルの調整	35

安全にお使いいただくために

ここに示した注意事項は製品を安全にお使いいただき、お客様への危害や損害を未然に防止するために重要な内容ですので、必ずお守りください。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

危険

死亡または重大な傷害を受ける事故が発生する内容です。
禁止事項は絶対にやめてください。

警告

死亡または重大な傷害を受ける事故が発生する恐れがある内容です。
禁止事項は絶対にやめてください。

注意

軽傷または中程度の傷害を受け、財物の損壊等につながる事故が発生する恐れがある内容です。充分にご注意ください。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。



この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
行為の内容によって、文字や図記号と組み合わせて表示しています。



この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。
行為の内容によって、文字や図記号と組み合わせて表示しています。



この絵表示は、気を付けていただきたい「注意喚起」内容です。
行為の内容によって、文字や図記号と組み合わせて表示しています。

取扱説明書について

- この取扱説明書は本機を操作するときは、必ず身近な所に置いてください。
 - 本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒に取扱説明書もお渡しください。
 - 紛失や損傷したときは、お買い上げいただいた販売店に連絡してください。
-

安全にお使いいただくために

⚠ 危険



よく読む

使用前に取扱説明書をよく読む

- 本機を使用する場合は、取扱の方法、作業の仕方等を習得してから慎重にサッチ除去・根切り作業をしてください。



禁止

芝地のサッチ除去・根切り作業以外には使用しない

- 本機は芝地のサッチ除去及び芝の根を切る為に設計・製造されていますので、サッチ除去・根切り作業以外には使用しないでください。目的以外で使用されますと、ケガや事故の原因になります。また本機の寿命を縮めます。

傾斜面等、不安定な場所での作業及び放置はしない

- 傾斜地で作業（使用）をすると、本機がバランスを保つことが出来ず転倒し事故が発生する恐れがあります。



刃部に手足等、身体を近づけない

- 回転するフレイルリール（サッチ除去）・デルタリール（オプション／根切り）で手・足等身体を切断、もしくは巻き込んで重大な人身事故を招きます。



子供や操作方法が理解出来ない方は使用しない

- 本機の操作方法をご存知ない方、または理解出来ない方には操作させないでください。
- 本機に子供や物品を乗せたり、子供に操作をさせないでください。
- 未成年の方による操作は、保護者の監督下でない限りおやめください。

こんな時は使用しない

- 各部のカバー等の部品を外した状態で使用しないでください。
- 疲れている時、身体の調子の悪い時は使用しないでください。
- 夜間及び天候の悪い時は使用しないでください。

雨天や雨上がり、散水後は作業をしない

- 芝生が濡れていると転倒によるケガ等の恐れがあり危険ですので、サッチ除去・根切り作業はしないでください。

安全にお使いいただくために

⚠ 警告



点検・確認

使用の前に各部の点検・調整及び組立方法を確認する

- 本機の組立を適切に行ってください。
- 正常でない機械を使用するとケガや故障の原因になりますので、各部の点検・調整及び組立方法を確認してください。
- 各部のネジに緩みがないか、各部品に損傷がないか、正常に動作するか充分点検してください。
- 工具はボルト・ナットのサイズに合った適正なものを使用してください。異常があった場合は直ちに使用を中止し、適切な調整・修理を行ってください。



必ず守る

換気の悪い室内ではエンジンを運転しない。

- 有害な排気ガスによって中毒の恐れがあります。

作業範囲の石・空缶・木片・金属類などの硬い異物を取除く

- 石・空缶・木片・金属類があると、刃先等を傷めたり故障の原因及び、障害物の飛散によるケガの原因となりますので取除いてください。
- 散水栓、飛石、特に電線ケーブルの位置に注意して作業してください。

作業中は、人や動物を近づけない

- 作業中は作業員以外（人や動物）を作業現場周辺に近づけないでください。飛散物や機械に巻き込まれる人身事故の恐れがあります。

次の場合はエンジン回転を停止させ、点火プラグキャップを点火プラグより外し、回転部を停止させ、輪止めを確実にしてから行う

- 各部の組立、点検、整備、調整時。
- 燃料給油時（エンジンが冷えてから行う）。
- キャッチャーの脱着時。
- 回転部に石・木片・金属類等が接触して異常を感じた時。

作業に適した服装で作業する

- 操作時は常に安全面に配慮し、長袖・長ズボン（袖・裾のダブつきのない）などの作業服を着用してください。
- 各部の点検、整備、調整及び芝刈作業時は、JIS等の規格に合格した安全帽を着用するとともに革手袋、防塵メガネ・耳栓をつけ、足元の保護のため安全靴を履いてください。

作業中および使用後は…

- 作業中、本機から離れないでください。
- 使用後は、お子様の手の届かない鍵のかかる所に保管し、輪止めを確実にしてください。

安全にお使いいただくために

⚠ 注意



必ず守る

芝生は30~50mm以下に刈り込み、サッチ除去・根切り作業を行う

- 芝生が長すぎると、回転部に巻付く恐れがあり芝生を傷めます。

本機の分解や改造をしない

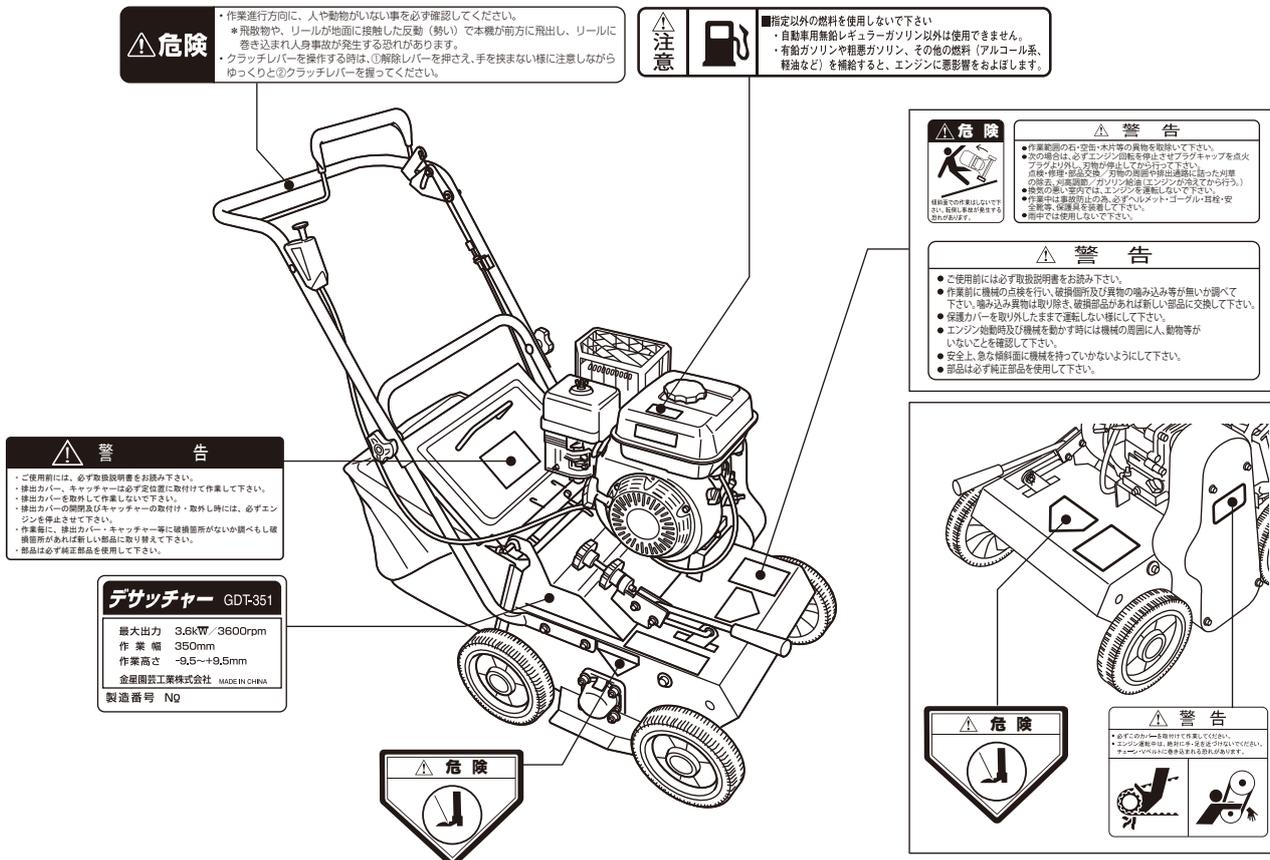
- 機械の手入れに必要な部品は、安全確保のために純正部品をご使用ください。
- 本機に異常を感じた時は直ちに作業を中止し、必ずお買い求めの販売店にお申し付けください。
- 取扱説明書に記載以外の分解修理及び改造は行わないでください。故障する恐れがあります。

使用後や収納保管時の注意点

- 使用後は必ず手入れをして、湿気の少ないところに保管してください。湿気の多いところではサビが発生して、故障の原因となります。

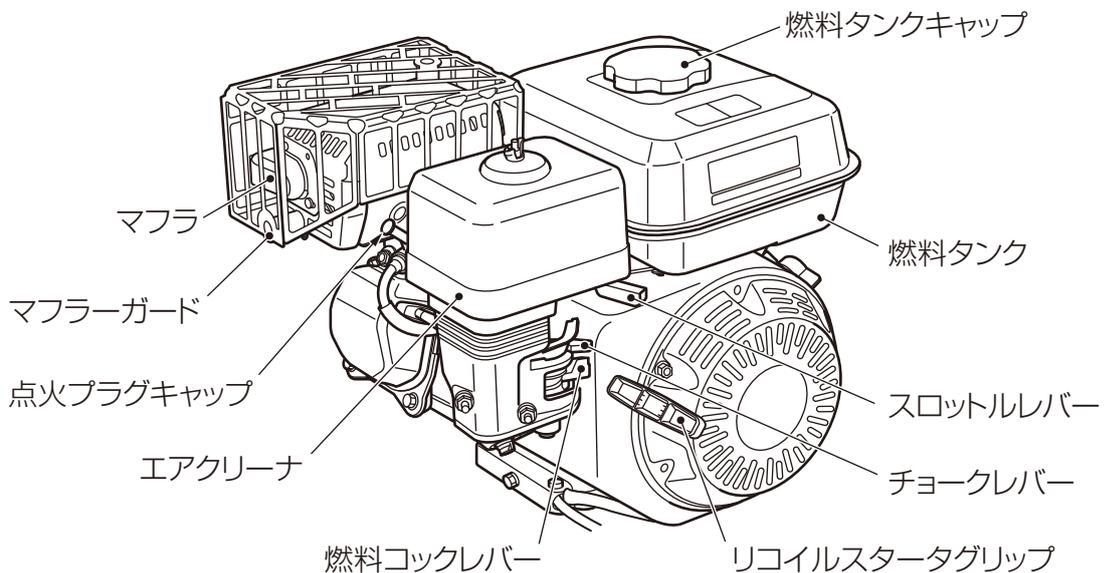
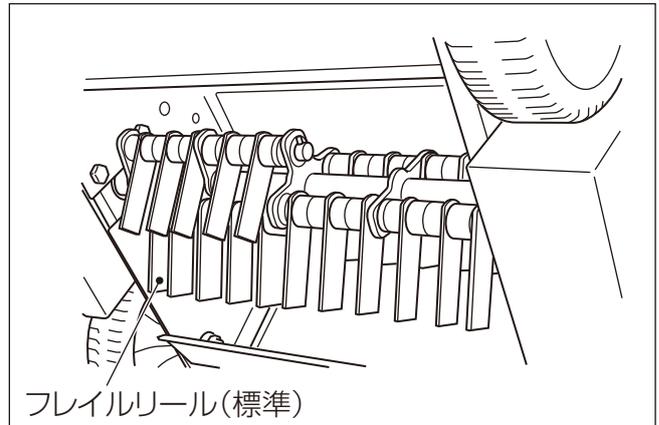
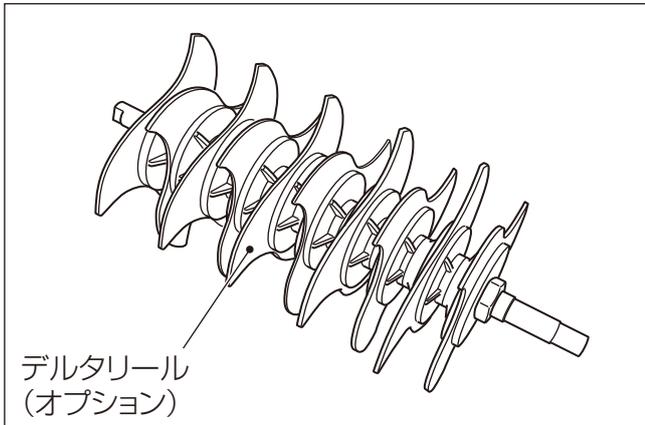
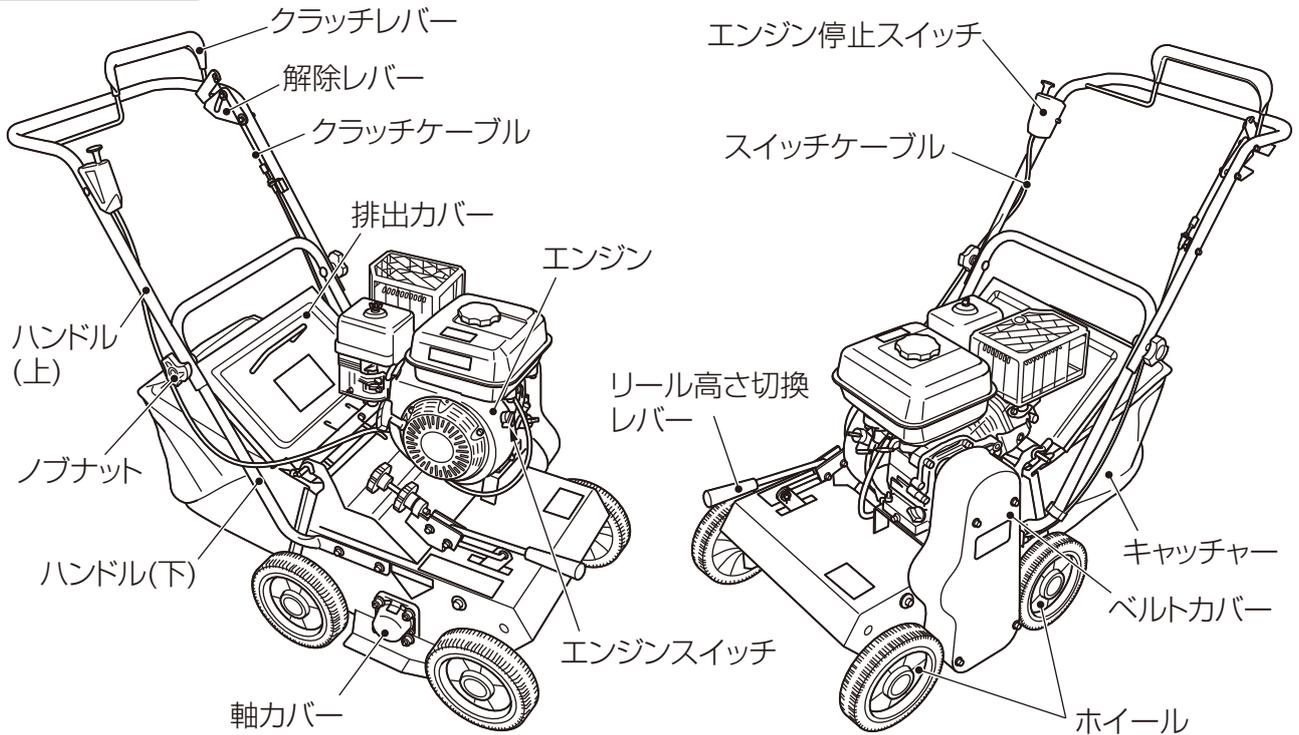
警告・注意ラベルの貼付位置

安全に使用していただくために、本機には警告・注意ラベルが貼ってありますので、よく読んでからご使用ください。なお、ラベルははっきりと見えるように、常にきれいにしておいてください。



各部の名称と仕様

各部の名称



各部の名称と仕様

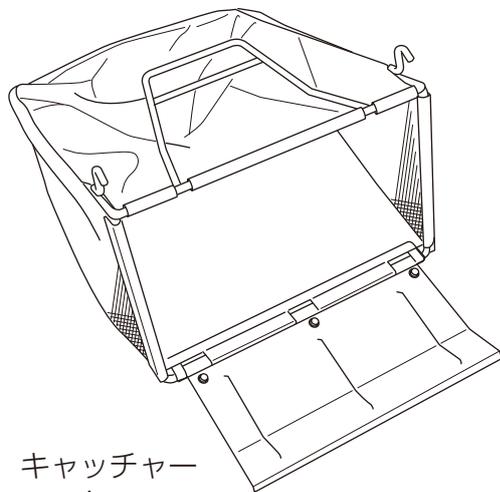
仕 様

		フレイルリール (標準)	デルタリール (オプション)
本機型式		ゴールデンスターエンジン式デサッチャー GDT-351	
エンジン型式		Honda GX160H1QHH	
エンジン形式		4サイクル OHV 空冷横軸型ガソリンエンジン	
総排気量	cm ³	163	
最大出力	kW(PS)/rpm	3.6 (4.9)/3600	
燃 料		自動車用無鉛ガソリン	
燃料タンク容量	ℓ	約3.1	
エンジンオイル容量	ℓ	約0.58	
点火プラグ		NGK BPR6ES	
作業幅	mm	約350	
リール高さ調整代	mm	約19 (-9.5 ~ +9.5)	約19 (-12 ~ +7)
刃数×取付ピッチ	枚×mm	22×約15	10×約38.4
キャッチャー容量	ℓ	約40	
作業能力	m ² /h	約440~610	
クラッチ		ダブルベルトテンション方式	
整備寸法	mm	約1120×565×1060	
整備重量	kg	約51	約57.5

本仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

各部の名称と仕様

付属部品



キャッチャー
……1



ハンドルボルト
……2



亀座金
……2



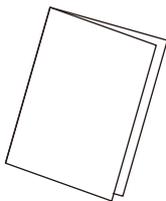
スプリング
ワッシャー
……2



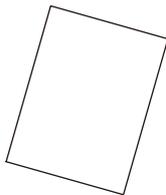
ケーブルクランプ
……1



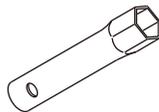
ノブナット
……2



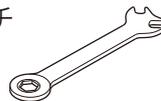
取扱説明書
……1



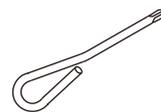
保証書
……1



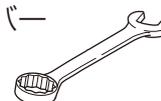
プラグレンチ
……1



スパナ……1
8×10×13



ドライバー
……1



スパナ……1
12×14

…… ツールキット

必ず梱包品の確認を行ってください

⚠ 注意



必ず守る

- 開梱、組立作業は、けが防止のため必ず2人以上で行い、作業者は安全靴・手袋を着用してください。

段ボール箱を開封し、梱包品が全て揃っているか確認してください。
※箱、梱包材は収納時や移送時に必要です。大切に保管してください。

デサッチャーの取扱い

1. エンジン始動までの準備

⚠ 警告

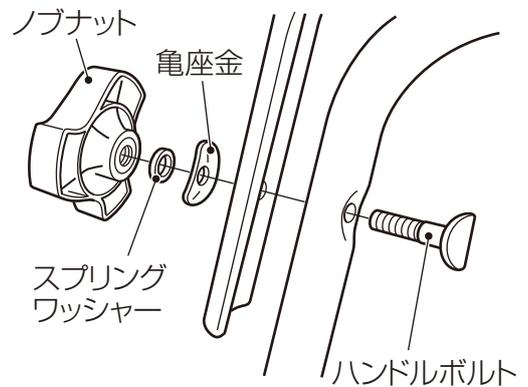


必ず守る

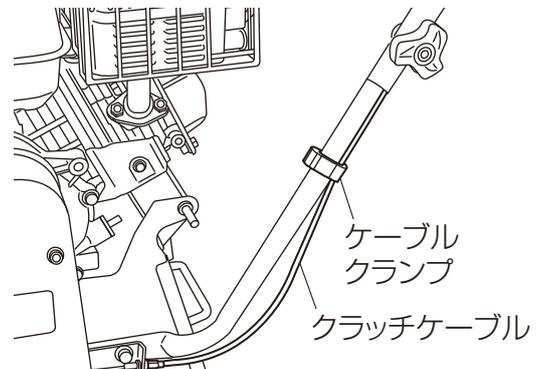
- 機械が重たいので運搬、開梱、組立作業は2人以上で行い、作業者は安全靴、手袋を着用ください。
- クラッチケーブル等をハンドルで巻き込んだり、挟み込んだり、折ったりしないでください。本機の性能を十分に発揮出来ないばかりか、緊急時に事故回避操作が出来ない場合があります。

1-1. ハンドルを本体へ取付ける

- ① ハンドル(上)を方向に注意して、ハンドル(下)にハンドルボルト、スプリングワッシャー、亀座金、ノブナットで確実に締付けてください。



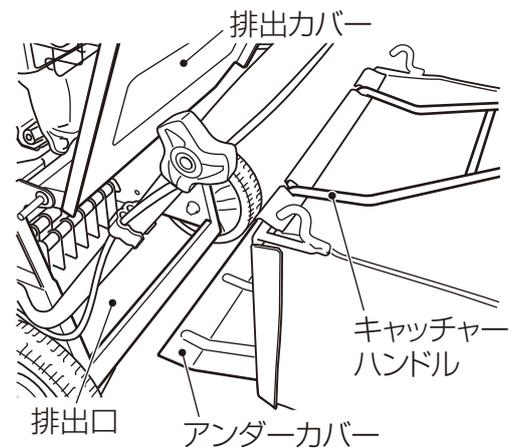
- ② クラッチケーブルをケーブルクランプで作業のしやすい位置に固定します。



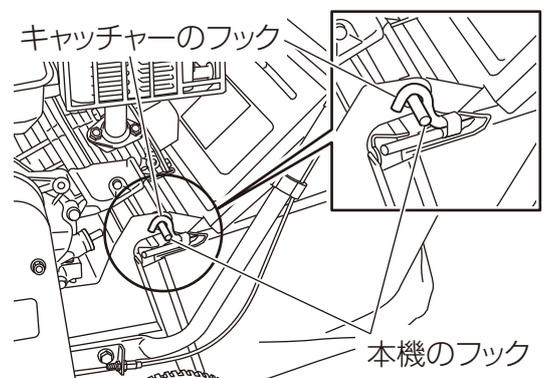
デサッチャーの取扱い

1-2. キャッチャーを取付ける

- ① 片手で排出カバーを持ち上げ、もう一方の手でキャッチャーハンドルを持ち、キャッチャーのアンダーカバーを本機の排出口に差し込みます。



- ② 本機のフック2か所へキャッチャーのフック2か所を確実に引掛け、手を放した後、排出カバーを閉じます。



デサッチャーの取扱い

1-3. 作業前点検をする

⚠ 警告



必ず守る

- 作業前点検は必ずエンジンスイッチを“OFF”（停止）位置にし、エンジン回転を停止させフレイルリール・デルタリールの回転が止まっている事を確認し、輪止めを確実にした後行ってください。
- ケガ防止の為、安全帽・防塵メガネ・手袋・安全靴を着用して行ってください。
- 本機を倒立させた状態で点検・整備・調整をする場合は、エンジンオイルをエンジンから、燃料を燃料タンク及び気化器より抜き取り、本機が倒れかからないように固定してください。

機械を最良の状態ですべて安全に使って頂くため、以下の作業前点検をします。

部品及び各部のネジ類

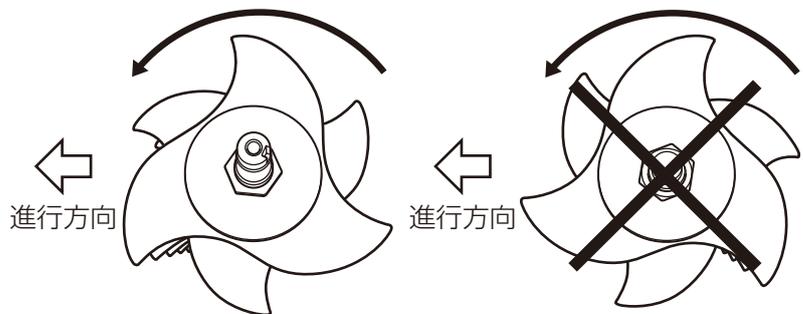
傷・割れ・摩耗・脱落した部品、各部のネジ類の脱落やゆるみがある場合は、機械の運転は行わず、部品の交換、ネジ類の締め直しを行ってください。

エンジン

エンジンに亀裂や損傷した箇所がある場合は、エンジンを修理に出してください。修理をする前に運転はしないでください。

デルタリール（オプション／根切り）

デルタリール（オプション／根切り）取り付け方向を確認してください。



フレイルリール・デルタリール

• 破損や摩耗

フレイルリール・デルタリールに破損や摩耗がある場合は交換し、挟み込まれている異物は取り除きます。部品交換や異物の除去を行わないと、正常なサッチ除去や根切り作業が出来ないだけでなく、重大な事故を起こす恐れがあります。必ず取り除いてください。

• 芝地環境、作業目的に合った高さ調整

芝地に凹凸がある場合や高さを低く調整した場合は、クラッチレバーを操作した時に本機が突然前方へ飛び出す場合があります。高く設定した場合は、サッチ除去及び根切り作業が出来ない場合があります。

デサッチャーの取扱い

1-4. エンジンオイルと燃料の点検・給油とエアクリーナの点検をする

⚠ 警告



禁止

- 周辺は火気厳禁にしてください。また発火の恐れがあるので、エンジンが冷えてから給油・点検を行ってください。
- 燃料をこぼさないでください。もしこぼれた場合は完全に拭取ってください。
- 燃料は絶対に規定量以上入れないでください。**入れすぎると作業中に漏れて発火する恐れがあります。**



必ず守る

- 点検は本機を水平にし、安定した場所で必ずエンジンスイッチを“OFF”（停止）の位置にしてエンジン回転を止め、点火プラグキャップを点火プラグより外して行ってください。
- 各部のネジ類の脱落やゆるみがないか、必ず確認してください。各部のボルト・ナット等に脱落やゆるみがあれば本機に異常振動が起こり、回転部等の駆動部が外れ、重大な人身事故を招きます。

⚠ 注意



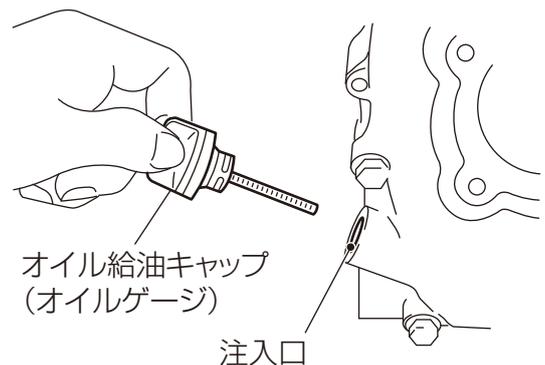
必ず守る

- エンジンを始動する前に、エンジンオイルが適量入っているか確かめてください。オイル不足は、焼付きなどの重大な損傷をエンジンに与えます。なおご購入時にはエンジンオイルが入っていません。エンジン始動前に必ずエンジンオイルを給油してください。

エンジンオイルの点検・給油

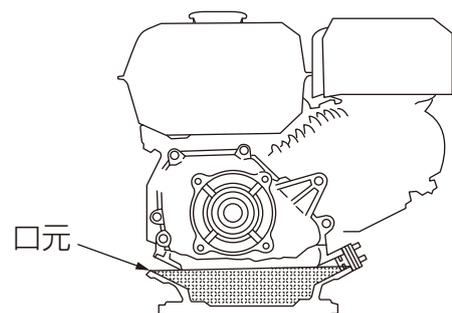
エンジンオイルが適量あるかを点検し、不足している場合は補給します。

① エンジンが水平になるように本機を置きます。



② エンジンオイル給油キャップを外し、注油口の口元までオイルがあるか点検します。不足している場合は新しいオイルを口元まで給油し、汚れや変色が著しい場合は交換します。

オイル容量	0.58 ℓ
-------	--------

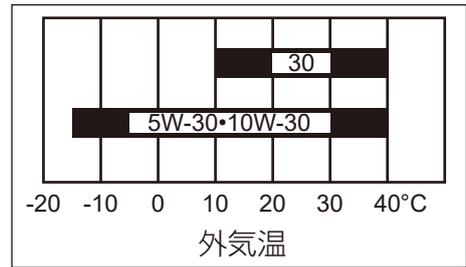


デサッチャーの取扱い

ポイント

- 推奨エンジンオイル：
4 サイクルガソリンエンジンオイル Honda 純正
ウルトラ U 汎用 (SAE10W-30)
または API 分類 SE 級以上の SAE10W-30 オイル
- オイルの粘度：
作業場所の気温に応じて粘度を選定してください。

気温に応じた粘度の目安

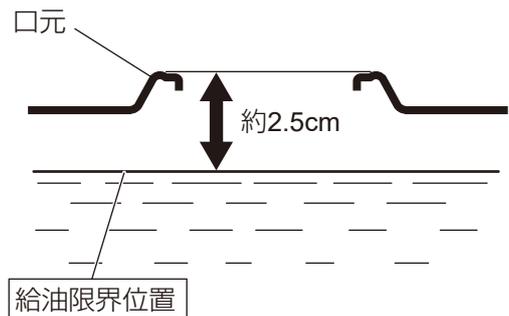


燃料の点検・給油

燃料は自動車用無鉛ガソリンをご使用ください。

エンジンを水平にし、燃料タンクキャップを外し、注入口よりガソリンの量を点検します。少ない場合は給油限界位置を超えないように補給してください。

- ① エンジンが水平になるように本機を置き、タンクキャップを外します。
- ② 燃料タンクキャップを外し、燃料膨張を考慮し、口元から約 2.5cm 以上の余裕を給油します。



燃料の規定量	約 3.1 ℓ
--------	---------

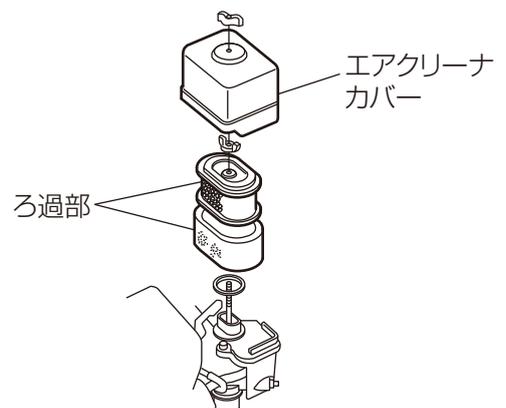
* 使用条件 (傾斜地での使用) により、給油限界位置はさらに低くします。

- ③ 燃料の補給後はタンクキャップを必ずしっかりと締めてください。

エアクリーナの点検

エアクリーナカバーを外し、ろ過部 (ウレタン・紙製) が汚れていないか点検し、汚れている場合は清掃・交換してください。

(P.27 「1-4. エアクリーナの点検・清掃」を参照)



デサッチャーの取扱い

1-5. リール作業高さ調整をする

⚠ 危険



必ず守る

- リール作業高さを低く調整した場合、クラッチレバーを操作した時に本機が突然前方へ飛び出す恐れがあり危険です。

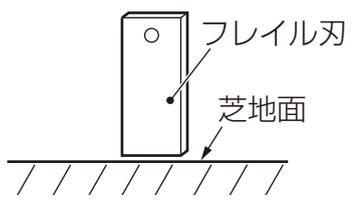
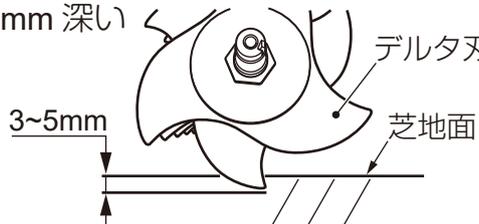
⚠ 注意



必ず守る

- 芝地環境、作業目的に合ったリール作業高さに調整してください。高さ調整が合っていないと芝生を傷める恐れがあります。

サッチ除去・根切り作業は芝生・地面の状態により異なりますので、作業状態を確認しながら作業現場にあった高さに調整します。

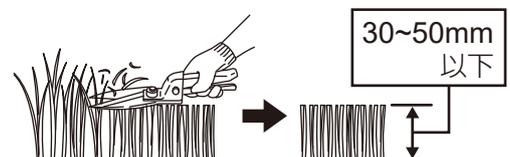
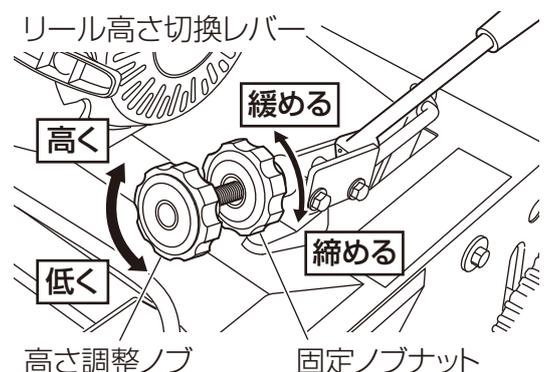
リールの種類	高さ調整出来る範囲	高さ調整する目安
フレイルリール	約 -9.5 ~ +9.5 mm	芝地面に接する手前 
デルタリール	約 -12 ~ +7 mm	芝地面より3~5mm 深い 

① リール高さ切換レバーを前方へ倒し移動（運搬）位置にし、固定ノブナットを緩め、高さ調整ノブが回転するようにします。

② リール高さは高さ調整ノブを左に回すと低くなり、右に回すと高くなるように調整が出来ます。
 * 一度仮に調整して作業を行い、芝地環境、作業目的に合った高さに再度調整してください。

③ 調整後は固定ノブナットを確実に締め、高さ調整ノブが動かないように固定します。

④ 最適条件で作業するため、芝生は芝刈機等で予め30~50mm 以下に刈り込んだ後、本機でサッチ除去及び根切り作業を行います。



デサッチャーの取扱い

2. サッチ除去作業・根切り作業

オプションのデルタリール使用

2-1. エンジンを始動する

⚠ 警告



禁止

- 排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内や換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。一酸化炭素によるガス中毒になる恐れがあります。

⚠ 注意

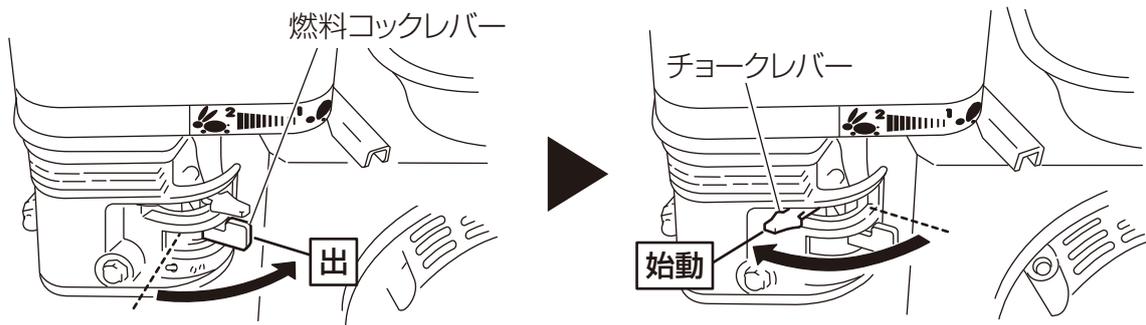


必ず守る

- エンジン始動後、リコイルスタータグリップを引っ張った状態でグリップを放すと、ロープやリコイルスタータ等が損傷する場合があります。リコイルスタータグリップは放さず、ゆっくりとリコイルスタータの中まで戻してください。

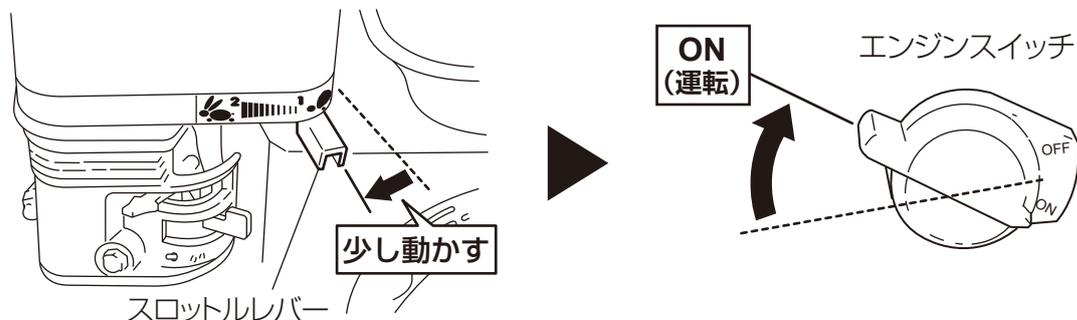
① 燃料コックレバーを“出”の位置に合せます。

② チョークレバーを“始動”の位置にあわせませす。(寒い時やエンジンがかかりにくい時)



③ スロットルレバーを矢印の方向に少し動かします。

④ エンジンスイッチを“ON” (運転) の位置にします。

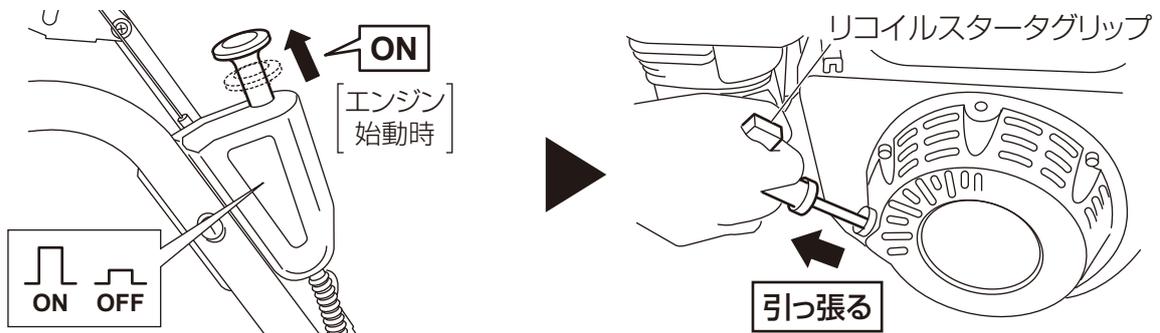


ポイント

エンジンが暖まっている時は、チョークレバーの操作は不要です。

デサッチャーの取扱い

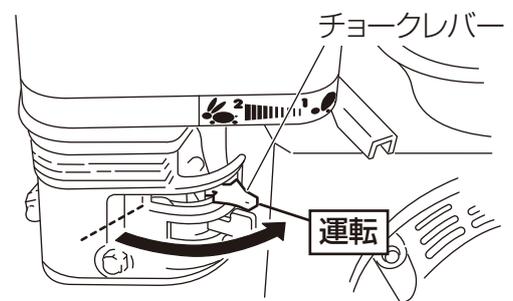
- ⑤ 停止スイッチを“ON”（始動・運転時）の位置にします。
- ⑥ 本機側の安全な部分をしっかり押さえ、リコイルスタータグリップを静かに引き、重くなるところで止めます。次に矢印方向に強く引っ張ります。



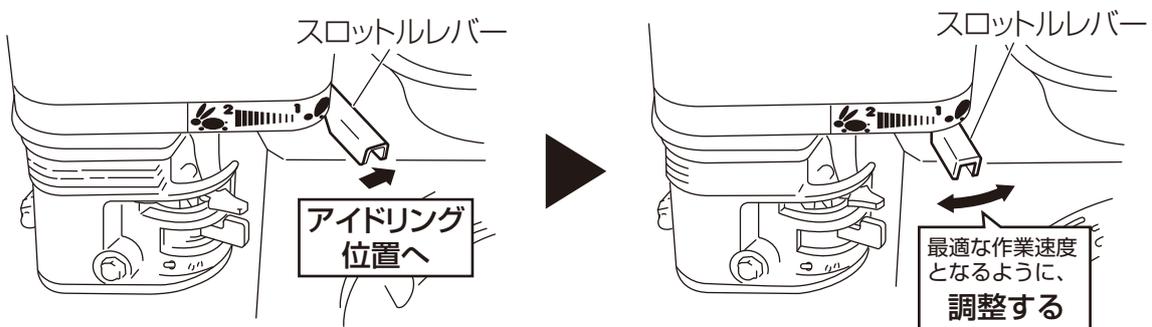
- ⑦ エンジンが始動したらチョークレバーを徐々に開き“運転”の方向に戻します

ポイント

- チョークレバーはエンジンの調子をみながら徐々に開き、最後には必ず“運転”にしてください。
- 寒い時またはエンジンが冷えている時に急にチョークレバーを開くと、エンジンが停止する事があります。



- ⑧ エンジン始動後は、スロットルレバーをアイドリング位置へ戻し、2～3分間暖機運転を行います。
- ⑨ スロットルレバーは、最適な作業速度となるような位置に調整してください。



デサッチャーの取扱い

2-2. エンジンを停止する

⚠ 警告

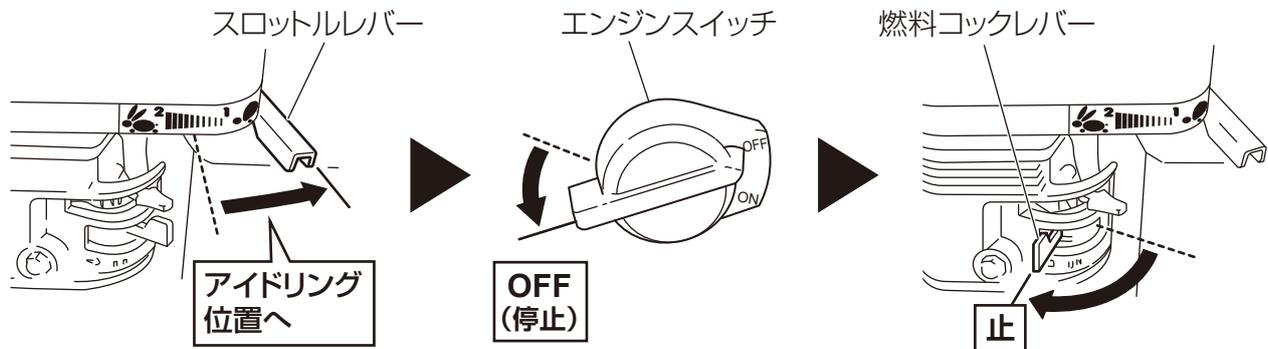


必ず守る

- 緊急事態が発生し、急にエンジンを止める必要がある時以外は、**高速回転中のエンジン回転の停止は避けてください。**

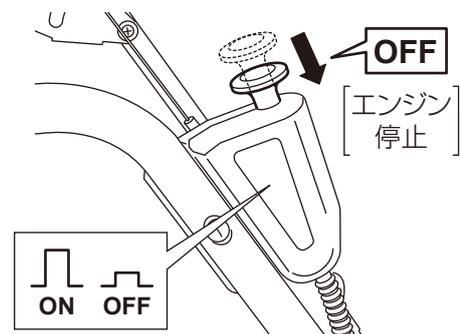
通常停止

- ① スロットルレバーを“アイドリング”の位置 (矢印の方向) に戻し、約1分間運転します。
- ② エンジンスイッチを“OFF” (停止) 位置に回します。
- ③ 燃料コックレバーを“止”の位置に合せます。



緊急停止

停止スイッチを“OFF” (停止) 位置にします。



デサッチャーの取扱い

2-3. サッチ除去・根切り作業 (オプションのデルタリール使用) を開始する

⚠ 危険



禁止

- 傾斜地での作業はしないでください。本機が転倒する可能性があります危険です。
- 岩、舗装面等の硬い処でのサッチ除去・根切り作業は絶対におやめください。フレイルリール・デルタリールが壊れ、破片が飛んでくる可能性があります。



必ず守る

- エンジンの最高回転数は工場出荷時セットしてありますので、それ以上上げないでください。回転部の回転速度が上がりすぎて危険です。
- 作業中は事故防止のため取扱説明書の警告の項及び危険・警告ラベルの指示に従ってください。
- 作業を休む場合は機械の輪止めを確実に行き、不用意に本機が動かないようにしてください。
- 作業進行方向に人や動物がいない事を必ず確認してください。飛散物や本機に巻き込まれ、人身事故が発生する恐れがあります。
- **サッチ除去・根切り作業をする時は、必ずハンドルを確実に握って操作してください。リールが地面に接触した反動(勢い)で本機が前方へ飛出す恐れがあります。**

⚠ 警告



必ず守る

- 作業範囲の石・空缶・木片・金属類などの硬い異物や巻付く恐れのある紐等を取除いてください。取り除く事が出来ない場合は、その付近の作業をしないでください。回転部が破損して飛び出す恐れがあります。
- 電気ケーブル等の位置に注意してください。ケーブルを切断・巻き込み、感電の恐れがあります。
- キャッチャーを取外して作業する場合には、必ず排出カバーを閉じてください。排出カバーを閉じない状態で作業すると飛散物でケガをします。
- 作業中に本機から離れる場合は、必ずエンジン回転を停止してください。

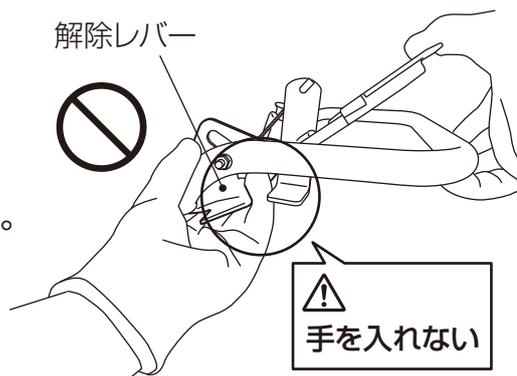
デサッチャーの取扱い

⚠ 注意



必ず守る

- エンジンを始動し、最適な作業速度となるようにエンジンスロットルレバーで調整してください。作業に不慣れな場合はごく低速で作業をしてください。
- デルタリールのブレードの高さが芝地面より低い時の根切り作業は、キャッチャーを取外して作業してください。キャッチャーを取付けて作業すると、デルタリールのブレードが土を削り、削られた土がキャッチャーに入るので大変重くなり、取外し・運搬に労力を必要とします。
- 解除レバーを押さえた状態でクラッチレバーを操作する時は、**解除レバーとクラッチレバーの間に手を挟む恐れがありますので、手を挟まないように注意してください。**

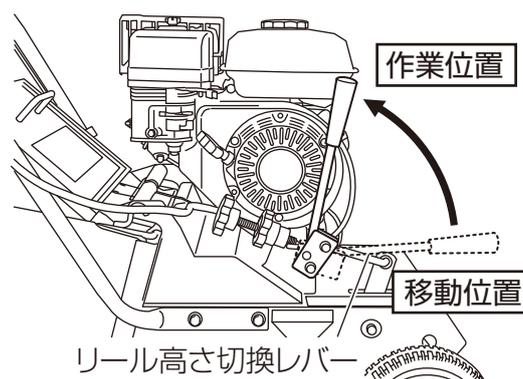


ポイント：作業をする時は…

- 回転部を芝地環境、目的に合った高さに調整してください。
- サッチ除去作業をする時は、キャッチャーを本機の後部に取付けてください。
- デルタリール（オプション）を使用して根切り作業をする時は、作業状況に応じてキャッチャーを取付けてください。

① エンジンを始動します。
(P.15 「2-1. エンジンを始動する」を参照)

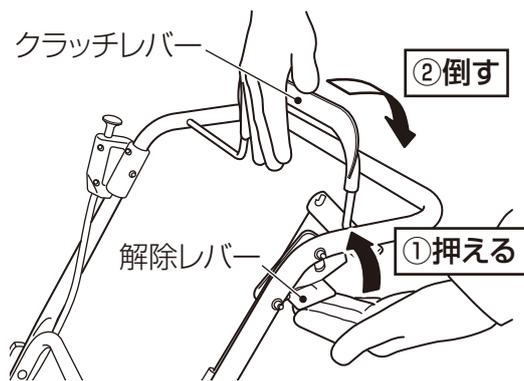
② リール高さ切換レバーを移動（運搬）位置から作業位置に引き上げ、リールを下ろします。



デサッチャーの取扱い

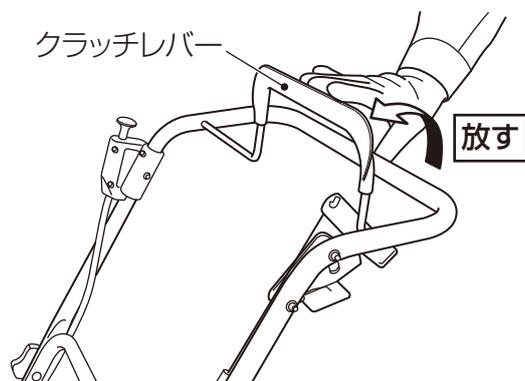
③ 解除レバーを押さえた状態で、クラッチレバーを操作して、回転部を回転させます。

④ エンジン回転が安定したら、ハンドルをしっかりと握りながら前方へ真っ直ぐに押していきます。



⑤ 本機の方向転換をする時は、クラッチレバーを放し、リール回転が停止した事を確認してから、ハンドルを引き下げ、後輪を軸に本機を回転させます。

⑥ 作業が終わったら、エンジンを停止します。
(P.17 「2-2. エンジンを停止する」を参照)



お手入れ方法と保管方法

1. お手入れ

⚠ 警告



必ず守る

各点検・整備・調整は…

- 事故防止、及び本機の性能を充分発揮させるために必ず行ってください。
- 本機を倒立させた状態で点検・整備・調整をする場合は、エンジンオイルをエンジンから、燃料を燃料タンク及び気化器より抜き取り、本機が倒れかからないように固定してください。
- 必ずエンジン回転を停止させ、点火プラグキャップを点火プラグから抜いて行ってください。
- ケガ防止のため、安全帽・防塵メガネ・手袋・安全靴を必ず着用してください。

⚠ 注意



必ず守る

- エンジンは高圧洗浄機での清掃は禁止です。
- 本機に異常を感じた時はただちに作業を中止し、修理が必要な場合は必ずお買い求めの販売店へ申し付けください。
- 取扱説明書の説明以外の分解修理及び改造は行わないでください。また必ずゴールドenster純正部品、付属品を使用してください。

お手入れ方法と保管方法

本機をいつまでも安全で快適にご使用いただくために定期点検を行いましょう。

点検項目		期間／作業時間				
		作業毎	1か月／ 20時間	3か月／ 50時間	6か月／ 100時間	1年／ 300時間
エンジンオイル	点検	○				
	交換		○ ※1		○	
エアクリーナ	点検	○				
	清掃			○ ※2		
	交換					○ ※3
点火プラグ	点検				○	
	清掃				○	
	交換					○
燃料ろ過カップ	清掃			○		
フレイルリール デルタブレード	点検	○				
	清掃	○ ※4				
リール高さ切換レバー 高さ調整ボルト部	点検	○				
	清掃	○				
ホイール	点検	○				
	清掃	○ ※4				
リール軸受リチューム系 グリース	補充			○		
クラッチケーブル摩耗、傷	点検	○				
ドライブベルト傷	点検		○			
各部のボルトナット	点検	○				
本機・エンジン以外の下部	清掃	○ ※4				
本機・エンジン	点検	○				
	清掃	○				

点検時期は、表示の期間毎または作業時間毎のどちらか早い方で実施してください。

本書に指示がある場合は、エンジンを始動させて、その機能を確認してください。

※1 初回のみエンジン使用1か月目または
運転20時間後に交換し、その後定期交
換してください。

※2 特にホコリの多い場所で使用した場合、
より頻繁に行ってください。

※3 紙ろ過部のみ交換してください。

※4 清掃には高圧洗浄機を使用できます。
高圧洗浄機の使用圧力は70N/cm²
以下で行ってください。

お手入れ方法と保管方法

1-1. フレイルリール(フリー刃)の交換

⚠ 警告



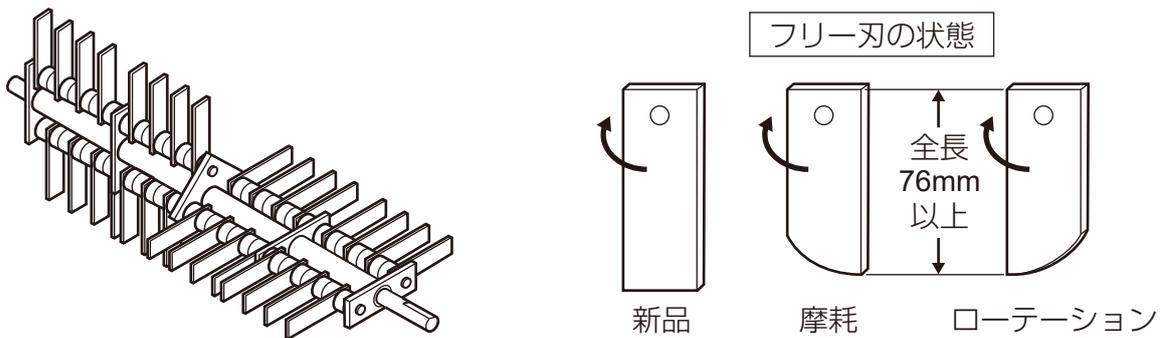
必ず守る

- フリー刃は回転時に互いの軸のフリー刃に接触しないように、カラーの組込む数に注意しながら各軸に組込んでください。
- 接触した状態で組込むと作業時にフリー刃が破損し、飛散する恐れがあります。また、フリー刃が同じ位置を作業するので作業効率が悪くなります。

フレイルリールでサッチ除去作業を続けるとフリー刃の角が摩耗し、サッチ除去作業の効率が落ちてきます。そのような状態になった場合は、フレイルリールのフリー刃を全数ローテーションして取付けてください。

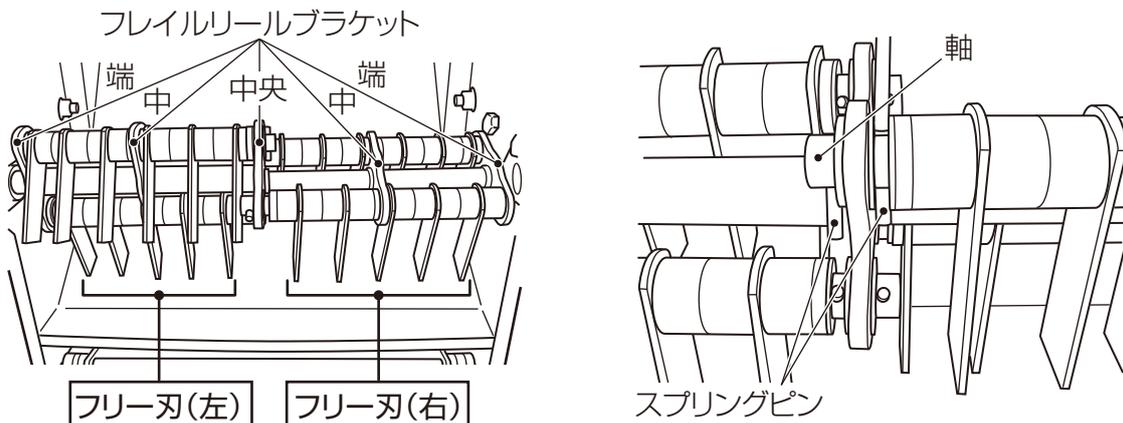
点検・清掃・交換時期

点検・清掃…作業毎 交換…フリー刃の全長が76mm 未満になれば交換。



交換のしかた

- ① 本機を倒立させて作業する必要があるので、エンジンからエンジンオイルを抜きガソリンを燃料タンクから抜きます。
- ② リール高さ切換レバーを作業位置にした後、本機を倒立させます。
- ③ フレイルリールのフリー刃を取付けている軸のスプリングピン2本を工具を用いて抜きます。

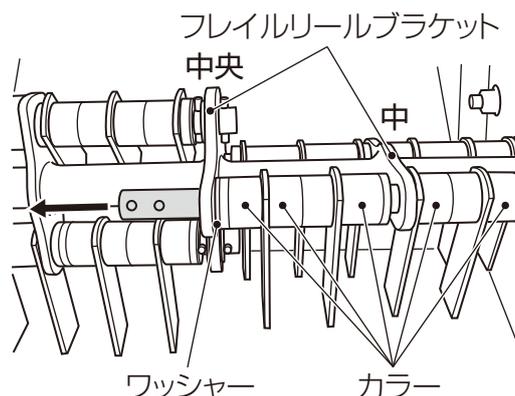


お手入れ方法と保管方法

- ④ スプリングピンが抜ければ軸をフレイルリールブラケット“中央”より矢印方向に取外します。

ポイント

このときにフリー刃・カラー・ワッシャーが、軸より外れて落ちるので、無くさないようにしてください。



- ⑤ 軸をフレイルリールブラケット“中央”から通し、フリー刃をローテーションしながら、カラー・フリー刃を組み込みます。同じ様にしながらフレイルリールブラケット“中”、“端”に軸を通します。
- ⑥ スプリングピン2本を工具を用いて軸に打ち込んだ後、残り軸3本に組込んであるフリー刃も同じようにローテーションして組み変えます。

1-2. デルタリール (根切り刃 / オプション) の交換

⚠ 警告



必ず守る

- デルタブレード (根切り刃) は重く先端が尖っていますので、持ち運びには充分注意してください。

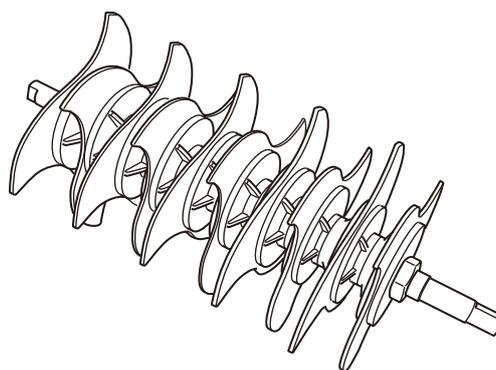
⚠ 注意



必ず守る

- 交換作業時は、必ずケガ防止のため安全帽・防塵メガネ・手袋・安全靴を着用してください。

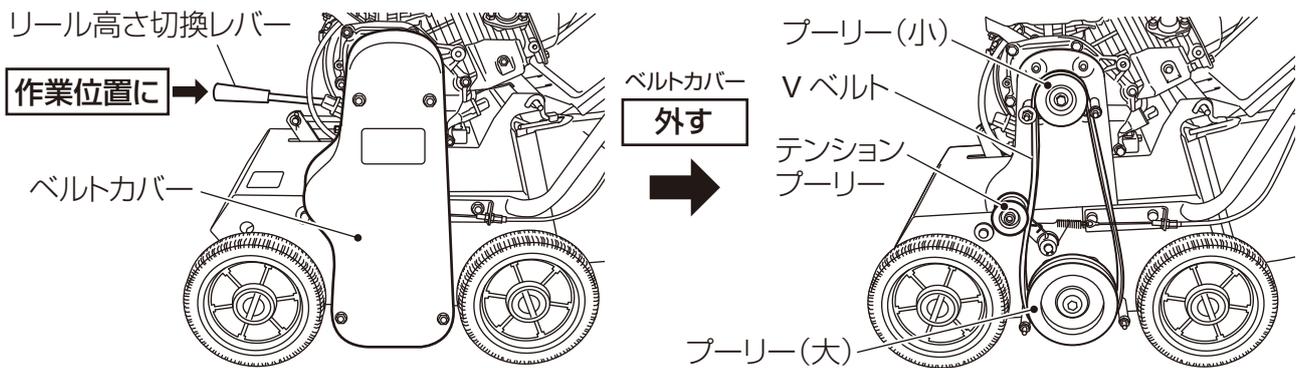
根切り作業を行う場合には、フレイルリール (標準) からデルタリール (オプション) に交換する必要があります。



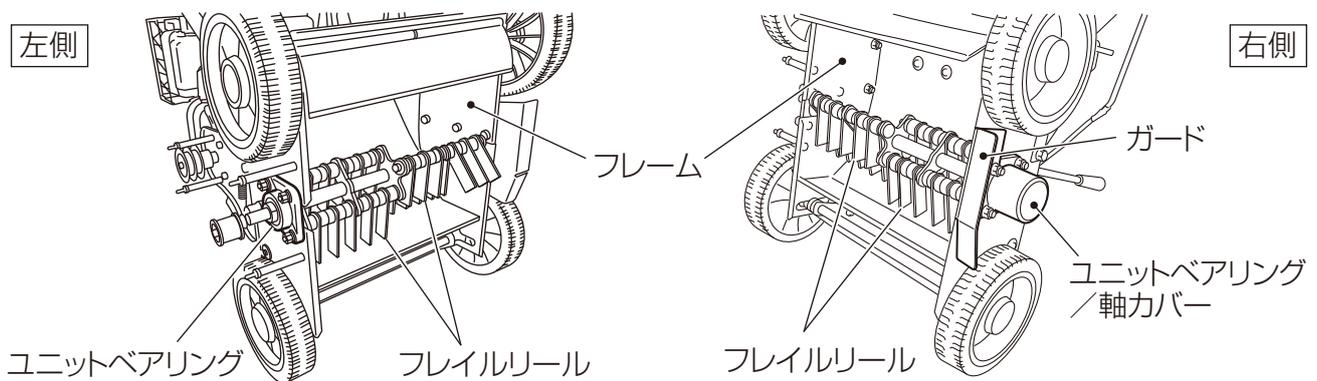
お手入れ方法と保管方法

交換のしかた

- ① 本機を倒立させて作業する必要があるので、エンジンからエンジンオイルを抜き、ガソリンを燃料タンクから抜きます。
- ② リール高さ切換レバーを作業位置にします。
- ③ ベルトカバーを取付けている、ナット4個を緩めて取り外し、ベルトカバーを外します。
- ④ プーリー（大）を取付けているボルトを緩め取り外した後、プーリー（大）とキーを外します。



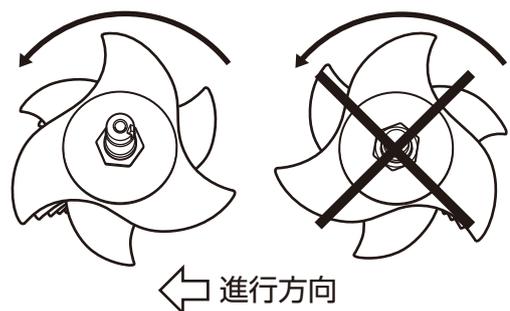
- ⑤ 本機を倒立させ、フレイルリールを取付けている左右のユニットベアリングとガード（右側のみ）、軸カバー（右側のみ）のボルト左右各4本を取り外して、フレイルリールとユニットベアリングを同時に取外します。



- ⑥ ユニットベアリングを固定している止めねじを緩め、フレイルリールからユニットベアリングを抜きます。
- ⑦ デルタリールを (①～⑥) の逆の手順で取付けます。

ポイント

- デルタリールを取付ける時は、デルタリールの回転方向を間違えないように組み込んでください。
- ボルトは必ずフレームの内側から差し込んでください。
- デルタリールの取付けは、先にボルトをフレームに差込んだ状態で行ってください。



お手入れ方法と保管方法

1-3. エンジンオイルの交換

⚠ 警告



必ず守る

- 熱いオイルで火傷を負う危険性があります。注意してください。



禁止

- 交換後のオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けられていますので、法令に従い適正に処理してください。なお不明な点は、お買い上げになった販売店にご相談ください。

エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。
交換時期、オイル容量を守りましょう。

点検・交換時期

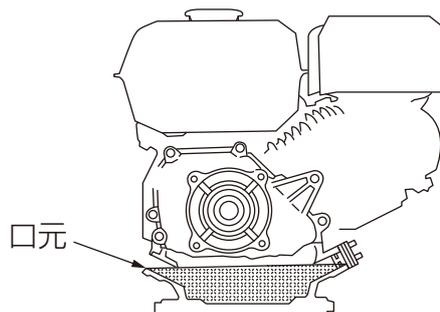
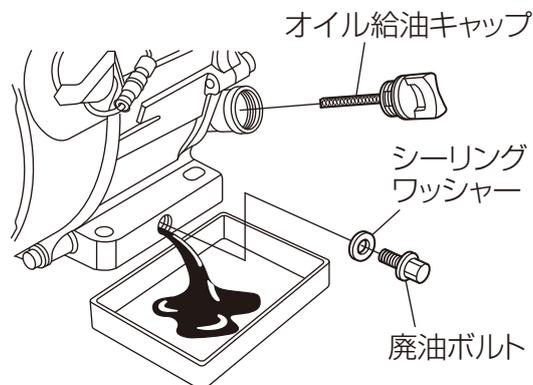
点検…作業毎

交換…初回のみエンジン使用1か月目または運転20時間後に交換。

その後6か月または運転100時間毎に定期交換。

交換のしかた

- ① オイル給油キャップ、廃油ボルト（二面幅10mm）を外してオイルを抜きます。
- ② 廃油ボルトをきれいに洗い、新しいシーリングワッシャーを取付け、廃油ボルトを確実に締め付けます。
- ③ エンジンを水平に保ち、注油口の口元まで新しいオイルを注入します。
- ④ 注油後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締め付けます。



ポイント

エンジンオイルの容量の点検・給油方法等は、P.12「1-4. エンジンオイルと燃料の点検・給油とエアクリーナの点検をする」を参照してください

お手入れ方法と保管方法

1-4. エアクリーナの点検・清掃

⚠ 警告



禁止

- エアクリーナの清掃の際には通気性の良い、火のない場所で行ってください。

⚠ 注意



必ず守る

- 紙ろ過部を傷付けないようにしてください。

エアクリーナが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので、定期的に清掃してください。

点検・清掃・交換時期

点検…作業毎 清掃…3か月または運転50時間毎。

交換（紙ろ過部のみ）…1年または運転300時間毎。

清掃のしかた

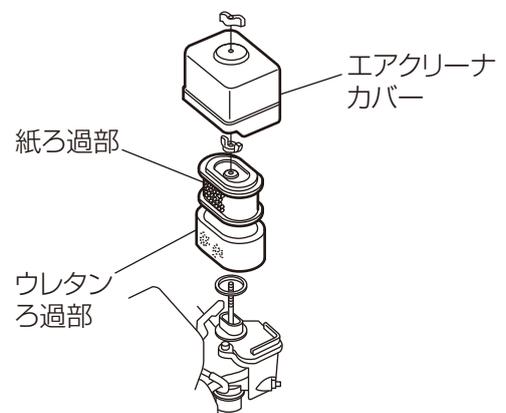
ウレタンろ過部

洗い油で洗い、よく絞ってから乾かします。

乾燥後ろ過部（ウレタン）をエンジンオイルに浸した後、固く絞ってから取り付けます。

紙ろ過部

内部から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落します。



お手入れ方法と保管方法

1-5. ドライブベルトの点検・交換

⚠ 警告



必ず守る

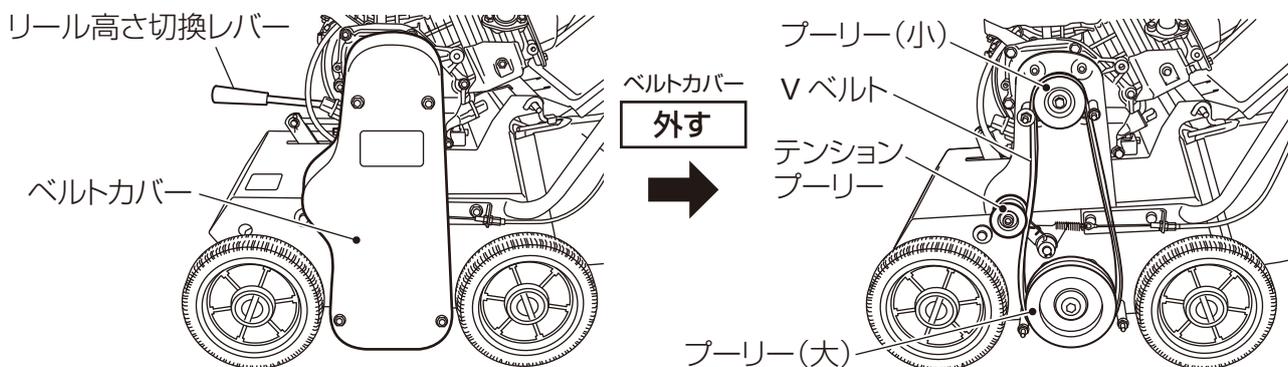
- エンジンスイッチを“OFF”（停止）側にし、エンジン回転を必ず停止させてください。回転部の回転が止まったら、点火プラグキャップを点火プラグから外し、点検・交換作業を行ってください。

点検時期

点検…1か月または運転20時間毎。

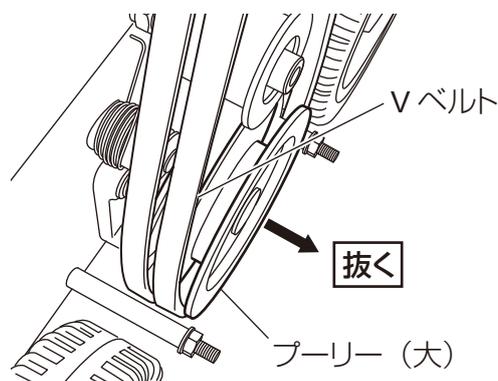
交換のしかた

- ① ベルトカバーを取付けているナット4個を緩めて取り外し、ベルトカバーを外します。



- ② プーリー（大）を取付けているボルトを緩めて取り外し、Vベルトが取りついた状態でプーリー（大）を軸より抜きます。

- ③ プーリー（小）を取付けているボルト緩めて取り外し、Vベルトが取り付いた状態でプーリー（小）を軸より抜き取ります。



ポイント

Vベルトの内外側に有害な亀裂・キズ・摩耗がないか確認し、問題個所があればVベルトを交換してください。

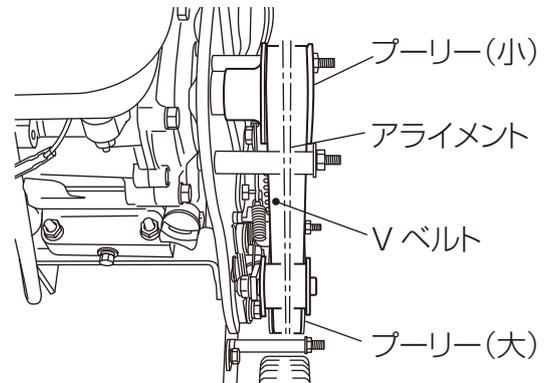
お手入れ方法と保管方法

④ Vベルトの点検や新品交換をし、再び本機に取り付ける時は、Vベルトをプーリー（小）、（大）の溝に掛け、プーリー（小）、（大）を軸に取付けます。

⑤ プーリー（小）、（大）を取外したボルト・ワッシャーで締め付けて固定します。

ポイント

このとき、Vベルトのアライメントがズれていないかを確認してください。ズれているようであればプーリー（小）、（大）の取付位置を確認し、再度組付け直します。



⑥ アライメントがあていれば、ベルトカバーを取付けナットで確実に締め付けてください。

1-6. 燃料ろ過カップの清掃

⚠ 警告



禁止

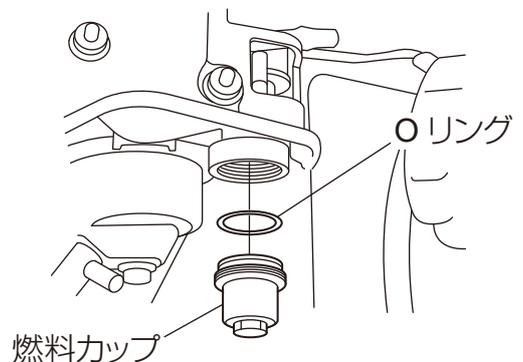
- 火気厳禁。

点検・清掃時期

点検・清掃…6か月または運転100時間毎。

清掃のしかた

- ① 燃料コックレバーを“止”にします。
- ② 燃料ろ過カップを取外します。
- ③ 燃料ろ過カップを洗油でよく洗い、底にたまったゴミや水を取除きます。
- ④ 清掃後、ガソリン漏れのないようにOリングと燃料カップを取付け、締め付けナットを確実に締め付けてください。



お手入れ方法と保管方法

1-7. 点火プラグの点検・調整・交換

⚠ 警告



禁止

- 点火プラグの清掃・調整はエンジンが冷えてから行ってください。ヤケドする危険があります。

⚠ 注意



必ず守る

- 電極が汚れたり電極の隙間が不適當な状態では完全な火花が飛ばなくなり、エンジン回転が不均一になり、エンジン不調の原因となります。
- 点火プラグの取付けは、ネジ山をつぶす恐れがありますので、はじめは指で軽くねじ込み (5 ~ 6山)、次にプラグレンチで確実に締付けてください。
点火プラグ締付けトルク 23N・m (2.3kgf・m)

点検・清掃・交換時期

点検・清掃…6カ月または運転100時間毎。点火プラグの清掃と電極隙間の調整を実施。

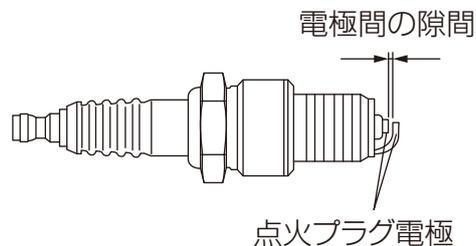
交換…1年または運転300時間毎。

清掃のしかた

- ① 点火プラグキャップを点火プラグより外し、点火プラグ (二面幅21mm) をプラグレンチでエンジンより取り外します。
- ② 点火プラグに付着したカーボン等を、プラグクリーナーもしくはワイヤーブラシ等で落とします。
- ③ 最後に電極隙間を0.7~0.8mmになるように調整します。

推奨点火プラグ：BPR6ES (NGK)

W20EPR-U (DENSO)



お手入れ方法と保管方法

1-8. デサッチャーのお手入れ

⚠ 注意



必ず守る

- 調整、お手入れ等の際は、ケガ防止の為に必ず手袋を着用し、充分安全に注意して行ってください。
- お手入れの際はガソリン、シンナー、ベンジンは使用しないでください。

いつまでも最良の状態を保つために、ご使用後は本体・回転部・キャッチャー・ハンドルをきれいに清掃し、サビ防止のため機械油をしみこました布で金属部を手入れし、その後よく乾燥させてください。

ポイント

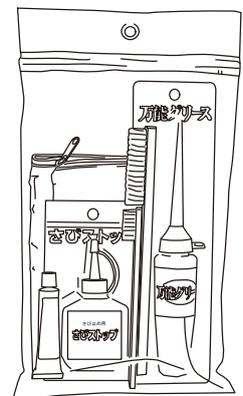
- 芝刈機お手入れセット
No.538503 ※別売



デサッチャーのお手入れに欠かせない商品が、一袋にまとまっています。

セット明細

- グリス
- さび止め
- ブラシ (大・小)
- ウェス
- コンパウンド
- ファスナー付き手さげバック



※ご用命の際は本機をご購入の販売店、又は貼付のQRコードをお使いください。

お手入れ方法と保管方法

2. 長期保管について

⚠ 警告



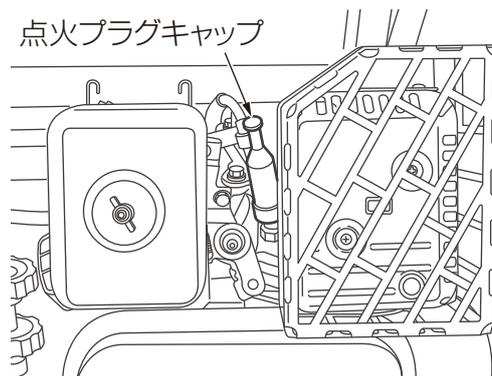
必ず守る

- 燃料は非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
- 燃料を抜く時は換気のよい場所で行い、火気を絶対に近づけないでください。
- 燃料はこぼさないように抜いてください。
- 油脂類の廃液は法令で適切な処理を行なうことが義務づけられています。
法令に従い適正に処理してください。 不明な点は、お買い上げになった販売店にご相談ください。

本機を30日以上保管するときは必ず燃料タンク、キャブレターから燃料を抜取ってください。

2-1. 長期保管のためのお手入れ方法

- ① エンジンスイッチを“OFF”（停止）にし、エンジンを停止させてください。
- ② 点火プラグキャップを点火プラグから外します。

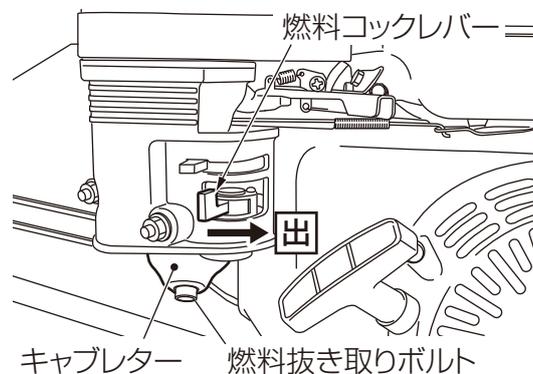


- ③ 燃料を抜取ります。

ポイント

● 燃料の抜取りかた

- 1) 燃料タンク内の燃料をポンプ等で適当な容器に抜取ります。
- 2) 燃料コックレバーを“出”の位置にします。
- 3) 次にキャブレターの下に適当な容器を置き、キャブレターの燃料抜き取りボルト（10mm）を緩め、燃料を抜取ります。



- ④ 燃料が抜き終われば、燃料抜き取りボルトはしっかり締付けます。

お手入れ方法と保管方法

- ⑤ リコイルスタータグリップを2～3回引きます。
- ⑥ 点火プラグを外し、取付穴からエンジンオイルを約1ml注入し、リコイルスタータグリップを静かに2～3回引いた後、点火プラグを取付けます。
- ⑦ リコイルスタータグリップを引いて、圧縮のかかった状態で止めてください。
* エンジン内のサビ防止のため。
- ⑧ 点火プラグキャップを点火プラグに、確実に取付けてください。

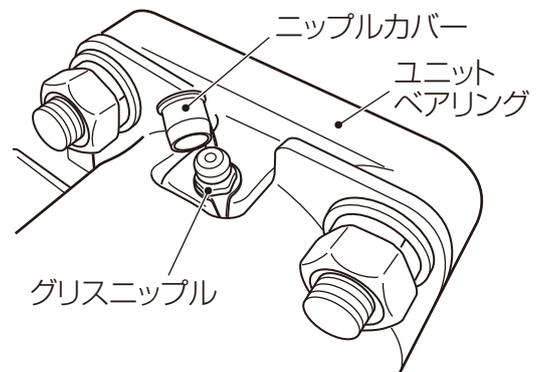
燃料の抜き取り作業が終わった後、

- ⑨ 本機に付着した土・芝・ゴミ等は、きれいに清掃します。

ポイント

高圧洗浄機で本機の清掃をする場合は、洗浄機の圧力は70N/cm²以下で行ってください。

- ⑩ ユニットベアリングのグリスニップルよりグリスを注油してください。



- ⑪ その後、エアクリーナの清掃、各部のボルト・ナット・部品など点検・交換を行い、サビやすい部品にグリスかエンジンオイルを塗布した後、カバーをし、湿気やホコリの少ない風通しの良い、子供の手の届かない鍵のかかる場所に輪止めを確実にし、保管してください。

トラブルシューティング

本機に異常があれば、修理に出される前に下表より原因を探り適切な対策を施してください。

不調の状況	予想される原因	対 策
エンジンが 始動しない	燃料がない	燃料を補給する。
	エンジンスイッチが“OFF”（停止）の状態になっている	エンジンスイッチを“ON”（運転）の位置にする
	停止スイッチが“OFF”になっている	停止スイッチを“ON”する
	燃料コックが閉じている	燃料コックを開く
	点火プラグから火花が出ない	点火プラグ／イグニッションコイルの交換
	チョークレバーが『始動』の位置になっていない（エンジンが冷えている状態）	気化器チョークレバーを『始動』の位置にする
	チョークしすぎによる燃料過多	スロットルレバー及びチョークレバーを全開位置にし、リコイルロープを勢いよく引っ張る
	燃料が古くなっている	新しい燃料と入れ替える
エンジン 出力不足・ 回転不安定・ エンジン ストップ	燃料系統の詰まり	清掃する
	エアクリーナの詰まり	ウレタンろ過部及び紙ろ過部の清掃または交換
	点火プラグの汚れ	点火プラグの清掃又は交換
	芝地傾斜がきつすぎる	傾斜地では使用しない
	エンジンのオーバーヒート	リコイルカバー及びファンカバーのゴミ除去
エンジンがロックして回らない (リコイルロープが引けない)	ドライブベルトの張りすぎ	クラッチケーブルの調整をする
	エンジン焼き付き	エンジン交換
サッチが 除去出来ない	フリー刃の角が摩耗している	フレイルリールをローテーションする
	フリー刃の全長が76mm以下になっている	フリー刃を交換する
根切り作業が 出来ない	根切り刃の先端が摩耗している	根切り刃の交換
	デルタリールの組込み方向が逆	デルタリールの組込みを逆にする
本機が異常 振動する	フリー刃、根切り刃が破損若しくは曲がっている	交換する
	エンジン取付ボルトが緩んでいる	ボルトを確実に締める
	ハンドルボルトが緩んでいる	ボルトを確実に締める
クラッチを 入れても機械 が動かない	ドライブベルトが緩んでいる	クラッチケーブルの調整をする
	ドライブベルトが切れている	ベルトの交換する
	クラッチケーブルの破損	交換する

※表は簡単なトラブルシューティングしか記載しておりませんので、わからない点や複雑な異常はお買い上げいただいた販売店にご相談ください。

トラブルシューティング

1. 各種調整方法について

出荷時には調整されています

1-1. クラッチケーブルの調整

⚠ 警告



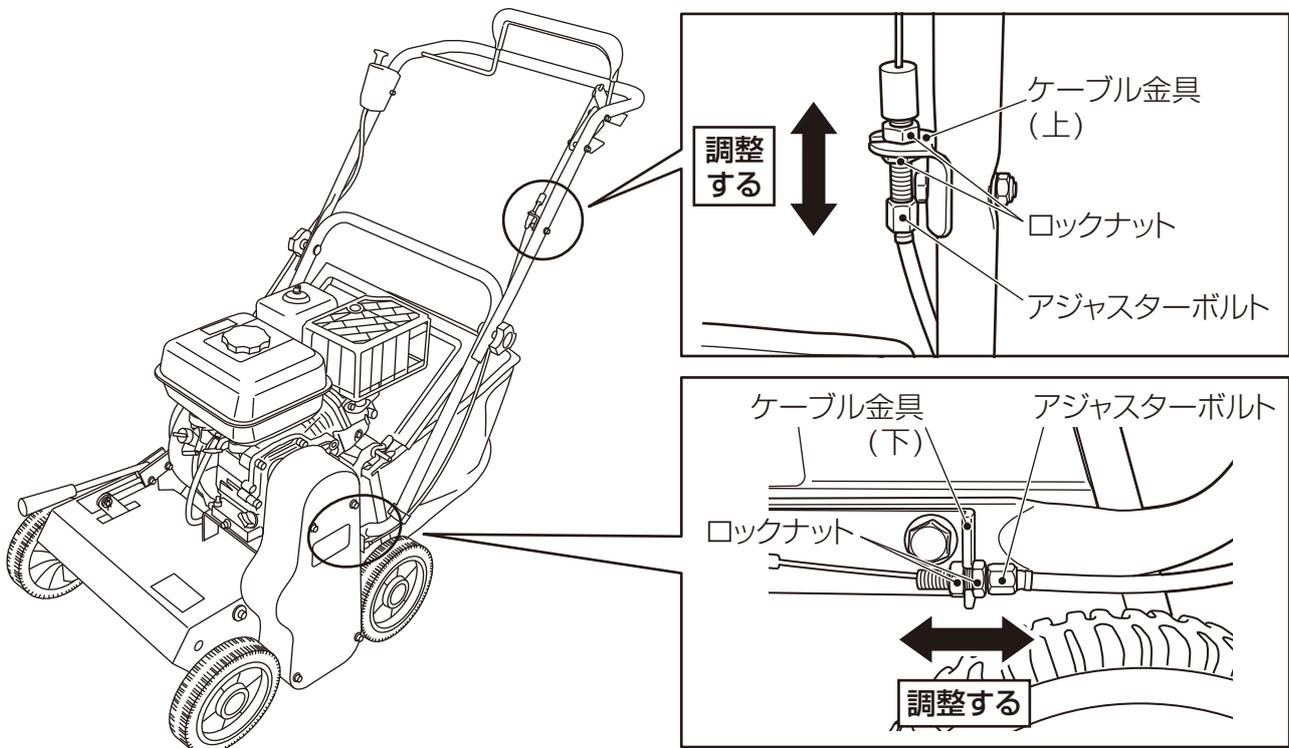
必ず守る

- クラッチケーブルは、クラッチレバーの操作によって、フレイルリール・デルタリールの回転の“入・切”が出来るように確実に調整してください。
- クラッチケーブルの調整が不十分な場合は、フレイルリール・デルタリールが回転しません。また、クラッチケーブルの調整調整がきつ過ぎる場合は、フレイルリール・デルタリールが常時回転することになり大変危険です。

クラッチレバーを放した時は回転部が停止し、クラッチレバーを倒した時は回転部が回転するようにケーブルを調整してください。

クラッチケーブルの調整のしかた

- ① ケーブル調整をする個所は、クラッチレバー側、Vベルト側の2か所にあります。
- ② ケーブル金具(上)(下)に取付けているアジャスターボルトのロックナットを緩めます。
- ③ アジャスターボルトをケーブル金具より外して矢印方向に動かして、クラッチケーブルを調整します。





部品ご入用、故障の場合、その他取扱い上ご不明な点があった場合には、ご遠慮なく
お買い上げの販売店にお問い合わせください。

本機を末長くご愛用いただきますようよろしくお願いいたします。

本 社

兵庫県小野市本町10番地 〒675-1372
TEL (0794) 62-2391 (代) FAX (0794) 63-5211 (代)

東京支店

埼玉県越谷市瓦曽根2-6-34 RSビル205 〒343-0821
TEL (048) 993-4581 (代) FAX (048) 993-4582

九州支店

佐賀県鳥栖市養父町473番地2 〒841-0055
TEL (0942) 85-9277 (代) FAX (0942) 84-2700 (代)

新潟・三条出張所

新潟県三条市神明町2-1 〒955-0063
TEL (0256) 32-9971 FAX (0256) 32-9671

KINBOSHI

Corporation

園芸機器総合メーカー

キンボシ株式会社